
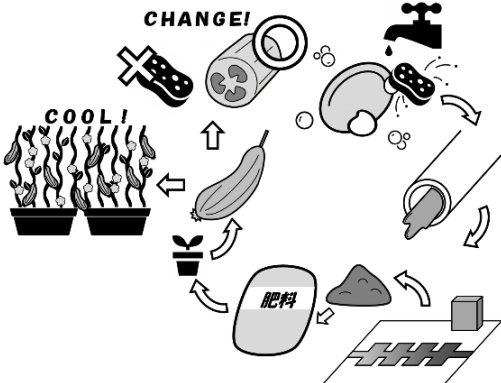


令和6年度 GKP 広報大賞 エントリーシート

団体名 光ヶ丘女子高等学校 岡崎市上下水道局	団体区分 （混成の場合は複数☑） <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 民間 <input checked="" type="checkbox"/> 学校・NPO・個人等
取組名 ヘチマプロジェクト ～高校生と考える「みんなでできる下水道×SDGs」～	
責任者 （実際に広報に取り組んだチームの代表者） 氏名：尾之内 童 所属：光ヶ丘女子高等学校 電話：0564-23-6551 E-mail： onouchi@hikarigaoka-h.ed.jp	
氏名：栗本 勝明 所属：上下水道局サービス課 電話：0564-23-6551 E-mail： jogesuiservice@city.okazaki.lg.jp	
 岡崎市上下水道局マスコットキャラクター スイットくん	
担当チームの構成 （外部人材を活用している場合や外部委託をしている場合等は、その旨記載して下さい） 光ヶ丘女子高等学校の教員及び生徒／岡崎市上下水道局職員	
取組のポイント （一言でいうとどういう取組かを、箇条書き等で記載して下さい） <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs の取組を積極的に推進している光ヶ丘女子高等学校をパートナーとして選定 ・高校生に日常生活での下水道事業を学び、SDGs と関連させて実践してもらい、下水道事業の広報マンに ・高校生が考案した「下水道×SDGs」の啓発を体験型アクティビティにより多くの市民へ発信 ・下水道が当たり前にある環境の恩恵と社会課題を高校生と考え、下水道のプレゼンスを高める 	
アピールポイント <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2;"> <p>【光ヶ丘女子高等学校との協同事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンホールサミットで生まれた光ヶ丘女子高等学校と上下水道局の協同活動を発展させた新規事業としてヘチマプロジェクト開始 ・下水道の入口は家庭の排水口に注目し、プラスチックタワシをマイクロプラスチックが発生しないヘチマたわしに取替えることで下水道と SDGs 考え、体験学習としてヘチマの育成からヘチマたわしの作成、校内清掃までを実施 ・活動で得た知識を生かす広報啓発の方法を生徒達が研究 → 「下水道×SDGs」な体験型アクティビティを考案・作成しショッピングモールの催事に出展して広報活動を実施 </div> </div> <p>【とことん SDGs !】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標 11「住み続けられるまちづくりを」をキーワードに、「SDGs・水循環・上下水道」を考える ・種からヘチマを育て、たわしを作って使用するまでの過程においても SDGs を感じる機会を創出 ・ヘチマたわしでマイクロプラスチックを出さない取組み ・浄水汚泥、下水汚泥を含む肥料、廃品、間伐材を使用し、リサイクル意識を高めながら SDGs を実践 	
要したコスト ヘチマの育成にかかった材料費 2万5千円	

取組概要 | 年間スケジュール



取組の概要

とことん SDGs ! ① -目標 11 住み続けられるまちづくりを-

- ・プロジェクトを通じて下水道の必要性や水循環を学習し啓発方法を研究
- ・「SDGs・おかげさまで魅力発信展」へ協同出展し、教員と生徒が考案した**体験学習型アクティビティ**を使い、生徒自らが下水道の正しい使い方を説明・PR。体を使って楽しみながら学べたと来場した**親子から大好評**
- ・プロジェクトの**紹介パネル**を生徒と共に作成し会場で展示
- ・**デザインマンホールのコースター配布**や**フォトスポット**を設置し、来場者の興味を引くブース作りを実施



とことん SDGs ! ② -目標 14 海の豊かさを守ろう-

- ・生徒も注目していた「マイクロプラスチック問題」の対策に効果のある取り組みとして、ヘチマたわしを使用する活動を選択
- ・この問題を契機に、海の豊かさに関連する下水道事業や水循環を学び、環境にやさしい取り組みを実践



とことん SDGs ! ③ -目標 12 つくる責任つかう責任-

- ・ヘチマ育成に浄水場の汚泥や下水汚泥を含む肥料を使い、上下水道事業について理解を深める
- ・日常生活に欠かすことができない水道、下水道を使うことについて考える
- ・園芸ネットは部活動の廃品、プランターは廃棄予定のもの、鉢の名札には間伐材を使用

とことん SDGs ! ④ -目標 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに-

- ・ヘチマのグリーンカーテンで「夏場の教室が少し涼しくなる」ことを体感
- ・光合成による CO2 削減で地球温暖化防止に微力ながら貢献



その他

- ・生徒のアイデアをもとにヘチマタワシの商品化等のブランディングを検討
- ・協同出展をインターシップとすることで、生徒の積極的な広報活動を促し、さらに、学校での協同事業の継続の動機づけを図った

成果（数字を交えるなど、できるだけ具体的に記載して下さい）

① 生徒に日常生活の下水道の正しい使い方と SDGs の関連を認識してもらい広報マンに

- ・プロジェクトを実施した**クラスの生徒4割が「日常生活で下水道を意識するようになった」と回答**

② ショッピングモールで体験型の啓発活動等を生徒が実施

- ・下水道の正しい使い方を学ぶ体験型アクティビティを生徒が自作
- ・参加者 **586 人**に**体験や対面で下水道の使い方を啓発**
- ・学校内ではパネル展示で生徒、教員、来校者に情報発信

③ 事業の継続につながるアイデアを生徒が提案

- ・種を小学校等に分けて活動を広げたいと生徒も奮起
- ・生徒発案のアイデア数は **12 種類**

<プロジェクトに参加した生徒の声>

- ✓世界中に下水道が広がってほしい！
- ✓当たり前だと思ったこの環境の有難さを実感しました！
- ✓下水道についてできることは思いつかなかったが、経験することで協力できることがあると思った
- ✓小さい子ども達も興味津々に話を聞いてくれた

＼生徒から集まった多彩なアイデア／

